

【様式】

令和2(2020)年度 学校マネジメントシート

学校名 (津商業高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		商業教育を通じて、「創造力」・「協調性」・「知恵」を持った人材を育成することで、地域社会に貢献できる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの可能性に挑戦し続けるとともに自ら学び、自ら考え行動し、自立している生徒 ・忍耐力・創造力・協調性を身につけ、新たな課題の解決に積極的に取り組んでいる生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す学校像の実現に向け、様々な場面において、情報共有と意思疎通を図りながら育みたい生徒の姿を目的として、互いに協力し、創意工夫が図れる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒>部活動を含め充実した高校生活を送ることを通して、学ぶ喜びを実感するとともに、自らの希望進路を実現することを期待している。</p> <p><保護者>子どもが安心安全な学校生活を送るとともに、学校生活全体を通じた人間力の育成及び希望進路の実現を期待している。</p> <p><地域>学校の取組により、地域の活性化に資する人材を育成するとともに、地域の教育力を学校が活用し、社会に貢献する意欲や態度をとともに育成することを期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><家庭> 学校情報の提供 学校行事等への参加機会の増加</p> <p><中学校> 卒業生の様子、入試情報などの共有</p> <p><地域企業・事業所> 地域産業の担い手としての人材の育成</p>	<p><家庭> 本校教育活動への理解と連携協力</p> <p><中学校> 基礎学力定着の促進と個々の生徒に対して効果的な指導を進めるための情報共有</p> <p><地域企業・事業所> 生徒の生きた学習の場(実学)の確保に向けての連携協力</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○広報活動は充実させることができている。ウェブページの更新頻度や内容も含めて、津商業高校としての取組が分かりやすく発信されている。津商業の教育の成果を感じ取ることができる。</p> <p>○進路保障に向けて、すでに組織的に取り組んでいるが(小論文指導・面接指導・補習授業など)、そのことについてのアピールをさらにすべきではないか。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得や部活動への積極的な参加の意思を持った生徒が多い。近年は、国立大学も含めた進学志望者が増加しており、就職志望と進学志望の両面での支援体制の充実が急務である。また、新学習指導要領の全面実施に向けたカリキュラムの検討や授業改善等についてさらなる協議を進める必要がある。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校外への本校の取組の情報発信の方法を工夫する必要がある。 ・授業内容の工夫改善を推進し、提供する授業内容を充実させるとともに、学力向上に向けた教員間及び授業間の連携を進める。 ・働き方改革、上限時間の縮減のために、校内の諸行事等、取りやめや縮小が可能なものについて検討する機会をもつ必要がある。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自ら学び、自ら考える取組となるような課題の設定や学習活動を推進する。 基礎学力を充実させるとともに、専門的知識や技能の取得をより一層推進するために、各教科間の連携を考慮したカリキュラム・マネジメントを推進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育理念や教育内容、教育実践内容等の商業教育の魅力を、中学校をはじめとして広く地域社会にPRし、理解を求める取組を推進する。 地域社会と学校との間で「人」や「情報」の交流を増やし、地域社会からの信頼と協力を得る中で、「生きた学習」の機会を増やせるよう取組を進める。 目的の明確化および共有を進め、組織の業務の見直しを進めることで上限時間縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)外部の教育力を積極的に利用し、より具体的な内容や新しい情報を用いた授業を行い、意欲を引き出す授業を実施する。 【成果指標】 生徒の学校生活アンケートにおいて、学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 77%以上	地元企業をはじめとする外部教育力の活用については、例年を上回る状況であった。その状況が多くのメディアに取り上げられた。アンケート結果はほぼ指標どおりの75%であった。	◎
キャリア教育の充実	(1)進路ガイダンスの充実 望ましい進路選択となるよう多岐にわたる内容とする。 (2)インターンシップに代わる取組の実施 有効な取組であるインターンシップが本年度は新型コロナウイルス拡大阻止のためにこれまでのような形態での実施は困難となった。その代替措置としての取組を実施する。 【成果指標】 学校の取組により、自らの進路について考えることができたと答える生徒の割合 65%以上	充実した進路ガイダンスを実施したことで、希望者全員の就職が実現した。進学においても3人の国公立大学合格者をはじめ、多くの生徒の希望が叶った。 インターンシップについては、実際の職業体験は全くできなかったため、代替講座として講習会を実施した。数値としての調査にはつなげられなかったが、講座後の振り返りでは、積極的に行動することや、多くの選択肢から比較して自らの進路を考えることが大切であるとする回答が得られた。	
心を育む教育の取組	(1)命を大切にすることを育む教育の充実 自らの考え方、捉え方を見つめ直すことで、いじめ防止や命を大切にすることを育成する。教科指導と連動させながら取組を進める。 【活動指標】 人権フィールドワーク発表会後のアンケート調査等から取組の成果と課題を把握する。	人権教育推進計画により教科指導と人権に係る校内の取組が有機的に連携できた。ことに、1年生の人権フィールドワークとその発表会は本年度も大変充実した内容となった。生徒の振り返りと、人権教育推進協議会での意見のとおり、たいへん効果のある取組として、来年度も継続することを確認した。	
改善課題			
新型コロナウイルス感染拡大防止のために本年度は取組が制限された。特に、自らの進路を考えるインターンシップを実施できなかったため、現2年生、新年度3年生となる生徒たちの進路を確実に保障することが大きな課題となると考えられる。			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組み	(1)研究会や講習会等への参加 (2)教員相互の授業研究 【活動指標】(1)6名以上 (2)年2回以上	コロナ禍の中、商業科に係る校外研修については、ある程度実施することができた。延べ6人以上は達成できた。 校内の授業研究週間については、本年も予定通り実施することができた。	
情報提供	(1)授業、学校行事等の公開 (2)ウェブページ、Instagram等の積極的な活用 【活動指標】年3回以上 【成果指標】参加者アンケートでの満足度80%以上 (このような指標を設定するが、本年度は新型コロナウイルス拡大阻止のために取組が制限される可能性がある。)	新型コロナウイルス感染防止のために、授業公開等については十分に実施することはできなかったが、高校生活入門講座は2部制にするなどの工夫をして実施した。参加者した中学生(約590人)の事後アンケートでは98.8%が参加してよかったと答えている。	
地域との連携	(1)地域行事等への参加 【活動指標】 授業での校外学習、部活動を含むすべての取組で、実施5回以上 (このような指標を設定するが、本年度は新型コロナウイルス拡大阻止のために取組が制限される可能性がある。)	コロナ禍の中、工夫しながら人権フィールドワークでは、県内13の施設、団体と連携して調べ学習を進めることができた。 その他、地元企業や店舗との協同事業を進め、メディアに何度も取り上げられた。	◎
総勤務時間の縮減	(1)上限時間月45時間超0人、年間360時間超0人 (2)会議時間の短縮 (3)夏季休暇の取得促進 (4)月1回の定時退校日実施 (5)部活動の週1回休養日の設定 (6)閉校日の設定 【成果指標】 (1)時間外労働時間昨年度以下 (2)職員会議時間60分以内90%以上 (3)全職員の取得実績 (4)定時退校日設定100%、退校率95% (5)休養日設定・実施率100% (6)年間3日以上	昨年度と同時期の全職員の時間外労働時間を比較したところ、約40%減となった。しかし、上限時間360時間超はないものの、45時間超は6月から増えはじめ、延べ29人となった。新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響もあったと考えられる。ただし年度末に向けては、その数は毎月1人と落ち着いている。 職員会議についてはほとんどの会議が60分以内に終了できている。 夏季休暇については全く取れなかった職員はいない。 定時退校日、部活動休養日、閉校日、いずれも当初の設定どおりとすることができた。	※
改善課題			
時間外労働時間については、校内の諸事業のスクラップアンドビルドや実施方法の簡略化、システム化等をはかり、さらに取組を進める必要がある。			

5 学校関係者評価

明らかに 改善課題と次へ の取組方向	<p>昨年度から課題としていた津商業高校の取組の発信については、ウェブページが適切に更新されるなど、取組が進んでいる。</p> <p>教員の献身的な取組で、部活動だけでなく、授業内容についても高い評価を得るようになっている。</p> <p>津商業高校では、挨拶励行や交通マナーの良さが風土としてできあがっている。そのような風土を今後も継続させていく必要がある。</p> <p>授業改善に向けては、「学校生活アンケート」の結果からも一定の成果が出ていると考えられるので、授業の工夫や改善の内容を教員全体でさらに共有化を図ることが必要である。</p> <p>現在のようなコロナ禍の中、Web を活用した授業の充実、小グループ単位での学習方法の開発なども今後の課題となる。</p>
--------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	<p>次年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策も安定するのではないかと考えられることから、本年度見送った種々の取組を積極的にすすめていく。</p> <p>そのような中でも、就職希望者は全員合格内定を得ることができた。また、国公立大学への3人の進学など、継続的な進学実績を挙げることもできた。</p> <p>令和4年度より施行される新学習指導要領へのスムーズな移行を考慮しながら、上記の意見を取り入れるなどして、本校の多様な教育活動を堅持していきたい。</p>
学校運営につ いての改善策	<p>コロナ禍にあっても、商工会議所や地元企業等々との連携を図ることができた。これは、これまで培ってきた本校の強みが生かされたといえる。</p> <p>次年度についても、さまざまな外部機関と協働する取組を、さらに進めていくことが必要である。</p> <p>働き方改革に関する取組については、今後も継続的な課題となると考えている。法律が改正施行されたことを受けて、中長期的な視点に立って整理すべき事項を検討していく必要がある。</p>